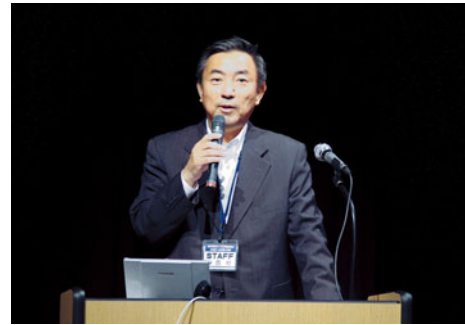


開催挨拶

財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構 事務局長
西村 安裕



皆さんおはようございます。事務局長の西村でございます。本日は皆様方には朝早くから大変お忙しい中、当シンポジウムにご参加をいただきましてまことにありがとうございます。また、日ごろより当機構の業務につきましてご支援、ご協力を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

今日のシンポジウムにつきましては「地球温暖化による気候変動の水環境への影響と対策」ということで、地球の温暖化につきましては、この後、気象台の里田部長が基調講演の中でも多分お話をされると思うんですが、地球の温暖化はもう既に始まっているということは多分そのとおりだろうし、そういった傾向が今後も続くであろうと思います。この勾配が急か、もう少し対策によって勾配が緩やかになることはあるかと思うんですが、そうした地球の温暖化の進行はある程度進んでいくだろうと予想されるわけです。そうした中で温暖化による影響というものがいろいろ取りざたされているわけです。例えばテレビで海などではサンゴの白化現象が起きている。これは海水温が上がることによってサンゴが死滅して白くなるという話だとか、熱帯性の魚が今までいなかったところで獲れるようになったとか、そういったことが報道されているわけです。

また今週か先週テレビで山形、サクランボの産地ですが、サクランボの実のなり具合が変わってきた。どうももう一つよくないという、例えば2つのものが1つになったとか、そういう映像が出ていたわけですが、そのようにいろいろなところで既に影響が出ているという報道はされているのです。

特に今言いましたように、海であるとか作物に対する影響等々は報道されているのですが、水環境に対してはどうなのか。これは多分影響は出ているだろうと思っています。例えば淀川、琵琶湖で考えますと、私の小さいころなどは、冬の伊吹山はいつも真っ白だったと記憶しています。確か、積雪量日本一だったような覚えがあるのですが、今はかなり雪が減っていると思っておりまして、2年程前には琵琶湖ではいわゆる大循環、寒くなると水が入れかわるのですが、そういったことも非常に弱くなってきていると言われています。

私が思うにやはり影響は出ているんだろうと。それが的確に把握されているのだろうかという懸念を持っておりまして、もう既に温暖化の初期ということではないのかどうかわかりませんが、今きちんととらえておかないと、状況を把握しておかないとまずいんじゃないかという思いをしております。

今まで水環境についてもいろいろな調査がなされているのですが、地球温暖化という観

点で今一度今までの調査計画でいいのかどうか、モニタリング計画はこういった形で良いのだろうか、そういう観点で見直しが必要だと思っています。つまりこういった項目を、こういった地点で、それをこういった頻度で、1日なのか1カ月なのか1年なのか、そういったタームをどうするかとか、それを誰がやるかというようなことをきちっと決めて、体系立ててやらないといけない時期が来ているのではないかと思っていますところでございます。そういうことを体系立てて調査をして、その情報を収集して共有化をする。そして整理をして解析をしてまた発信する。こういうことをきちっと決めてやっていくことがこれから重要になるであろう、そうしないと今後10年後、30年後、50年後に比較ができなくなるという思いを持っておりまして、このシンポジウムを企画してそういうことを考えていきたいと思っていますところでございます。

今日は気象台の里田部長をはじめ一流の講師の先生方、この後基調講演、リレー講演、パネルディスカッションとかなり長時間にわたるわけですが、貴重な講演ならびにパネルディスカッションをしていただくわけですので、活発なご議論を期待しております。そして皆さん方が今日1日終われば何がしか今後の業務等の参考になればという思いを持っております。

長時間にわたりますが、皆さん方ご熱心にご聴講いただければ幸いですので、よろしくお願いをしておあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。